

令和6年度 学校評価結果報告書

学校法人 日高学園
聖ヶ岡幼稚園

当園ではこの度、令和6年度の学校評価として、教職員自己評価及び、関係者評価を実施いたしました。教職員一人ひとりが、自らの教育活動や園運営の状況を振り返ることで、自身や園全体を見つめ直すいい機会となりました。

また、評価結果について話し合うことにより、成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。

この評価の結果を深く受けとめ、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

I. 教育目標

＜目指す子ども達の姿＞

自主性を持って様々な活動に取り組み、感性豊かに感じ、考え、行動することを楽しむ。

目指す子ども達の姿のために、日常の保育活動やカリキュラムの編成において、次の2点を常に意識して取り組みます。

①元気にのびのびと体を動かすことを楽しみ、素直で明るい心を育てること

②豊かな感性で気付く面白さ・考える楽しさ・行動できる充実感を繰り返し体験し学ぶことの意欲を育てること

子ども達が、安定した人間関係の中で生活や遊びを通して社会のルールや優しさと思いやりを身につけていけることを意識し、計画を立てて日常の保育に取り組みます。

II. 今年度の重点目標

●教育課程・指導計画の充実及び周知 ●公開保育研修の実施・充実 ●教職員の資質向上

●全体会議の活性化 ●安全管理体制の強化

III. 取組み状況と今後の課題

自己評価項目			取組み状況	
1	教育課程・指導計画の充実及び周知	教職員自身が日々の活動それぞれの意図や本質を考え、子どもたちの成長に即した指導計画へと応用していく。	A	保育においては子どもの様子に合わせた配慮が実践されており、製作や書き方などの既定カリキュラムについても今年度の子どもたちの課題に応じて指導方法や内容を工夫して取り組むことができた。特にお絵描き指導では、子どもたちの現状を把握した上でテーマを設定し、活動の意図や本質を明確にして実践することで、子どもたちの成長を実感することができた。年齢に応じた経験を計画的に実施した結果、子どもたちの自主性や表現力の育成につなげることができた。
2	公開保育の継続実施	他の教職員の指導方法から自身の保育を振り返り、互いに刺激し学び合う姿勢で取り組む。	B	他学年の保育内容や保育者の指導に関心を持ち、自分の目指す保育や姿をイメージできるようになった。合同保育や行事などで先輩職員の指導方法を観察し、声掛けや説明の仕方、言葉遣いなどの工夫を自分の保育に取り入れることができた。また、園長先生の保育を見学することで自分に足りない部分を発見し、他の先生の保育や言葉がけを参考にして実践することで、保育者としての成長を実感することができた。

令和6年度 学校評価結果報告書

学校法人 日高学園
聖ヶ岡幼稚園

自己評価項目			取り組み状況	
3	教職員の資質向上	教職員が視野を広げ知識を深めようとする姿勢を持ち、子ども達の興味や関心を引き出す工夫を行っていく。	A	担任間でより分かりやすい保育・指導について話し合い、「楽しんで学ぶ」時間を意識的に作ることができた。年数回の研修や月1回の歌唱研修を通じて新しい知識を学び、それを実際の保育に取り入れることで子どもたちの興味を引き出すことができた。初めてのクラス担任においても、一人一人の子どもの特性を理解し適切な関わり方や言葉がけを見つけることで、信頼関係を築きながら楽しい保育を実践することができた。
4	全体会議の活性化	自らの意見に自信を持つとともに積極性を養い、他の教職員の考えも尊重して耳を傾けていく。	B	週1回の職員会議では、園長からの話や他職員の意見を聞くことで、自分では気づかなかった点に気づくことができ、不安に感じていることを話し合える環境により自信につなげることができた。意見を言いやすい環境が整っており、発言した意見も尊重され、他の教職員の考えもしっかりと聞くことができた。先輩や後輩どちらの立場でも、発言前に一度考えてから意見を述べるよう意識して参加することができた。
5	安全管理体制の強化	防災頭巾の取り扱いを周知徹底させるとともに、教室内外の危険個所の確認を定期的に行う。	A	定期的な避難訓練により、職員間で災害の設定によって適した避難場所の確認をし合えた。園児自身も避難訓練の重要性や約束事を一人ひとりが理解し、全員が意識して速やかに避難することが出来た。園児への防災頭巾の使い方指導や自分で着脱する指導も行い、各クラスの担任は防災頭巾収納袋に保護者への緊急連絡先を入れて備え、避難の際に外に持ち出せる準備も整えることができた。また避難訓練とは別に子どものけがの事故につながるようなものは、たとえ職員室内であっても子どもの手の届かないところに置くなどの安全配慮を徹底した。

【評価の基準】	
A	十分達成されている
B	達成されている
C	取組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

Ⅳ. 次年度の取り組むべき課題

1	教育課程・指導計画の充実及び周知	園の教育課程における「ねらい」についての理解をより一層深めていく。また、お遊戯会などの行事においては、子どもたちの成長段階に合わせた振り付けや内容構成について、さらなる検討と改善をしていく。
2	公開保育の実施・充実	より組織的で計画的な職員間の学び合いの場を確保していきたい。
3	教職員の資質向上	子どもの興味を引き出せるよう、色々実践していきたい。特に絵画の題材となるものは実物を見せたり触れさせたりすることで興味・関心を高め、またあるいは子ども自身の体験をテーマにして子どもの感じたことなどの気持ちが表れる表現を引き出せるようにしたい。
4	全体会議の活性化	問いかけには適切に応答し、指示されたことは確実に遂行できているが、自分からの提議や提案をすることにまだ課題が見られる。より積極的な意見発信を促す環境を作っていきたい。
5	安全管理体制の強化	避難訓練の回数を増やして様々なパターンでの避難に慣れるようにしたい。また職員全体での遊具点検の機会をつくり、全員がより安全管理に意識を向けられるようにしたい。

V. 学校関係者の評価

子どもたちの保育の充実のため、職員が一丸となって課題・狙い・目的を持ち、取り組んでいることが伝わってきます。
また、自主性や表現力の育成に力を入れ、「楽しく学ぶ」時間を大切にすることで、豊かな感性はもちろん、創造する力や発言する力も育まれていると感じます。
公開保育では、日常の保育で当たり前になっていることを振り返る機会となり、保育者自身の成長も期待できます。子どもたちと担任との信頼関係を大切にしているからこそ、子どもは安心して自己表現ができています。安全面に十分配慮し、目指す子どもの姿に向けて尽力している幼稚園だと思います。

＜評議員＞

先生方が、子どもたちが「楽しんで学ぶ」ことができるよう、多くの時間をかけて準備してくださっていることが、改めてよく分かりました。
週1回の職員会議を重ね、園や子どもたちについて真剣に話し合ってくださっていることに感謝の気持ちでいっぱいです。
どの先生も子ども一人ひとりの個性を理解し、適切な声掛けをしてくださるのは、職員間の情報共有が行き届いているからだと感じました。

＜保護者＞

日々の保育の中で、子どもの成長や発達段階に応じた関わりをしていただき、褒めるだけでなく、必要な場面ではしっかりと叱っていただいたことで、年齢に応じた自主性や規律性を身につけることができ、親として大変うれしく思います。
先生同士の情報共有もしっかりとなされており、担当以外の先生も子どもの特性を理解してくださっているため、統一した対応をしていただけることに安心感を持って通わせることができました。

＜保護者＞

以上